

ペシャワール会

PESHAWAR-KAI

我々の鉄則とするのは
地元に即した
地元の人々による医療活動である
アジアの同胞としての
同じ目の高さをもって
「国際貢献」「国際化」の何たるかを
静かに問い続けるものでありたい

中村哲

ペシャワール会事務局

住所 〒810-0041福岡市中央区大名1-10-25上村第2ビル307号

電話 092-731-2372 FAX 092-731-2373

Eメール peshawar@mx.mesh.ne.jp

ホームページ <http://www1m.mesh.ne.jp/~peshawar/>

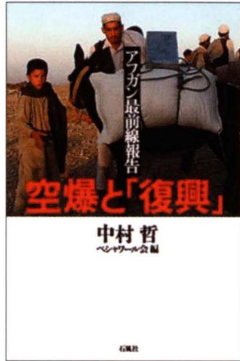
郵便物送付先 〒810-0001福岡市中央区天神1-10-24 福岡YMCA気付

郵便払込口座 01790-7-6559 加入者名 ペシャワール会

会長：高松 勇雄 事務局長：村上 優 現地代表：中村 哲

ペシャワール会は1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成され、現在はパキスタンとアフガニスタンで、医療活動・水源確保活動・農業支援活動を行っています。

◎中村哲医師の本◎



『空爆と「復興」—アフガン最前線報告』

(石風社 2004年刊)

9・11事件から2年余、アフガニスタンで活動を続ける中村医師の発言、そして現地日本人スタッフからの鬼気迫るEメール報告200余通を取録。

『辺境で診る辺境から見る』(石風社 2003年刊)

『ペシャワールにて』(石風社 1989年刊)

『ダラエ・ヌールへの道』(石風社 1992年刊)

『アフガニスタンの診療所から』(筑摩書房 1993年刊)

『医は国境を越えて』(石風社 1999年刊)

『医者井戸を掘る アフガン早魃との闘い』(石風社 2001年刊)

『ほんとうのアフガニスタン』(光文社 2002年刊)

* * * * *

『中村 哲さん講演録 「平和の井戸を掘る」

アフガニスタンからの報告』(編集・発行:ピースウォーク京都) (2002年刊)

* * * * *

福元満治著

『伏流の思考 私のアフガン・ノート』(石風社 2004年刊)

丸山直樹著

『ドクター・サーブ 中村 哲の15年』(石風社 2000年刊)

『アフガン乾いた大地 戦火の中の民』(NHK出版 2001年刊)

◆ご購入については、書店又は各出版社に直接お問い合わせください◆
石風社 (092) 714-4838

中村 哲 なかむら てつ

ペシャワール会現地代表。PMS総院長。

1946年福岡市生まれ。九州大学医学部卒業。国内の診療所勤務を経て、1984年パキスタン北西辺境州の州都ペシャワールに赴任。らい(ハンセン病)を中心としたアフガン難民の診療に携わり現在に至る。

◆事務局から◆

事務局は福岡市にあります。専従2名、ボランティア約30名が活動しています。寄付金をいただいた方へのお礼状書き、会報の発送、広報活動、ワーカーの送り出し等を行っています。お手伝いいただける方を募集しています。ぜひ事務局へご連絡下さい。例会は水曜日に行っています。

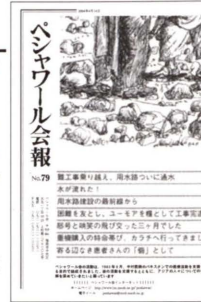
心が動いたら会員に

ペシャワール会入会案内

現地事業はあなたの会費で運営されます

本会は、会員の会費・寄付金を中心とした寄金によって運営されているNGOです。本会の活動をご理解いただければ、思想・宗教・国籍などを問わずどなたでも入会できます。

*会員の方には、現地の活動等の報告記事を載せた会報を年4回お送りしております。



年会費

学生会員	1,000円
一般会員	3,000円
維持会員	10,000円
団体会員	30,000円

(会計年度は4月1日～翌年3月31日)

*会費以外の寄付も随時受け付けております

会費・寄付などの納入方法

郵便払込口座番号 01790-7-6559

加入者名 ペシャワール会

本会または郵便局備え付けの払込取扱票に上記の口座番号

ほか、必要事項をご記入の上、郵便局からお送り下さい。

※ご入会の際は通信欄に「入会」と明記して下さい。

会報の発送に年間700万円以上かかっています。
未使用切手・書き損じのハガキ等をお送りいただければ幸いです。
(使用済み切手は扱っておりません)

ペシャワール会

PESHAWAR-KAI



我々の鉄則とするのは
地元 に即した
地元の人々による医療活動である
アジアの同胞としての
同じ目の高さをもって
「国際貢献」「国際化」の何たるかを
静かに問い続けるものでありたい

中村哲

ペシャワール会事務局

住所 〒810-0041福岡市中央区大名1-10-25上村第2ビル307号

電話 092-731-2372 FAX 092-731-2373

Eメール peshawar@mx.mesh.ne.jp

ホームページ <http://www1m.mesh.ne.jp/~peshawar/>

郵便物送付先 〒810-0001福岡市中央区天神1-10-24 福岡YMCA気付

郵便払込口座 01790-7-6559 加入者名 ペシャワール会

会長：高松 勇雄 事務局長：村上 優 現地代表：中村 哲

ペシャワール会は1983年9月、中村哲医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成され、現在はパキスタンとアフガニスタンで、医療活動・水源確保活動・農業支援活動を行っています。

誰もが行きたがらない所に行き、誰もがやりたがらないことをする ペシャワール会のあゆみ

ペシャワール会は中村哲医師の پاکستانでの医療活動を支援する目的で結成され1984年より現地活動を開始しました。

1984年、中村医師は پاکستانのペシャワール・ミッション病院に赴任し、まともな医療器具も手術施設もない医療環境の下で、治療活動を続けました。

86年よりアフガン難民への国内診療を開始し、更に、アフガニスタンにも活動範囲を広げ、1991年12月、アフガニスタン国内の活動拠点として、ダラエ・ヌールに最初の診療所を開設しました。以来、アフガニスタン北東部の3診療所を中心に、山岳無医村での医療活動を続けています。

1993年、ダラエ・ヌールで悪性マラリアが大流行し、治療薬の資金を確保するため、大々的な募金活動を展開しました。全国から2000万円以上の寄付が寄せられ、2万人もの患者の命が救われました。

1998年には恒久的な基地病院として、PMS(ペシャワール会医療サービス)病院をペシャワールに建設しました。

2000年、大干ばつに見まわれたアフガニスタンの村々で水源確保事業を開始し、井戸の掘削を中心にカレーズ(伝統的な地下水路)の修復を図る作業を現在まで継続しています。

2001年10月には「アフガンのいのちの基金」を設立し、空爆下、アフガニスタン国内避難民への緊急食糧配給を実施。2002年2月までに15万人に配給することができました。現在は、その基金をもとに、総合的農村復興事業「緑の大地計画」を始めました。



医療事業

ペシャワールのPMS病院(70床)を中心に、パキスタンに1カ所、アフガニスタンに3カ所の診療所(いずれも山岳地帯)を設け活動を続けています。

事業は治療にとどまらず、現地スタッフの医療教育も行っています。女性患者が医師(男性)にさえ肌を見せないイスラム的風習の中で、日本人女性看護師によるケアも行っています。

感覚神経マヒが原因の足底穿孔症(うらぎず)から、ハンセン病患者の足を保護するサンダル工房を病院内に備えるなど、リハビリテーションにも力を入れています。

2002年8月に受賞した沖縄平和賞で贈られた浄財を基に、ダラエ・ピーチ診療所を「オキナワ・ピース・クリニック」と名づけて新たに建て直しました。(2003年秋完成)

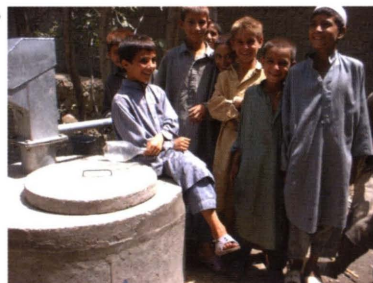
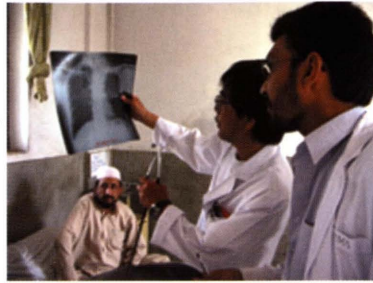
- 総診療数:約16万人(2002年度)
- 医療事業スタッフ:110名(2003年現在)

緑の大地計画

2000年7月からアフガニスタン国内の診療所で大干ばつによる水不足を原因として、赤痢患者が急増しました。

そこで、同年8月より、医療活動の一環としてアフガニスタン東部一帯で水源(井戸・カレーズ)確保事業を開始し、空爆下も休みなく続けてきました。

2002年1月に、「緑の大地」計画を発表、これまで続けてきた、医療活動・飲料水源確保はそのままペースを落とさず、さらに灌漑用水の確保に力を尽くし、自給自足できる農村の回復によってアフガニスタンが復興されるよう、さらに長期的かつ大規模な事業を目指して努力しています。



水利事業

農業に一番必要な水を確保するために、ダラエ・ヌール渓谷を皮切りにカレーズの復旧が始められました。砂漠化した中流域で手がけた38ヶ所中32本が復旧でき、それによって約1000家族(約1万名)が自分の村に帰ることができました。灌漑用井戸の掘削も進んでいます。

2003年3月、水量の豊富なクナール水系の水を利用した灌漑用水確保15カ年計画がスタートし、全長14キロメートルの用水路建設を進めています。2004年3月には一部通水しました。

- 作業地数:1000カ所、利用可能水源932カ所(2003年6月現在)
- 水利事業スタッフ:140名、労働者700名(2003年現在)

農業計画

「自給自足が可能な農村」の回復のためのモデル地区として、ダラエ・ヌール渓谷を選びました。この地区は最も貧困な農村である上に、干ばつ被害で一時は18000名の難民を出した所です。ここに地元民の協力を得て試験農場(約8000㎡)を作りました。

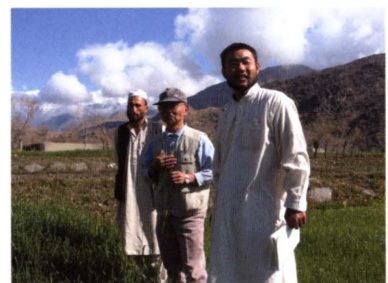
乾燥に強い品種の作付け、土壌の改善などに力を尽くして生産量を上げるよう、また、ケンに代わる換金作物の研究、農業を軽視せぬ教育、農具の改良などにも努力を重ねています。

さらに、アフガニスタンでは乳製品が生活に不可欠であるため、総合的な家畜業の育成に力を入れています。

- 農業・畜産関係:3名(2003年現在)

◆ワーカー募集◆

現在、日本人ワーカーが、パキスタンとアフガニスタンの医療、会計事務、水計画、農業などの部門で活動しています。男性ワーカー(現地スタッフ管理業務)と男性看護師を募集します。ボランティアで2年以上活動でき、日常英会話ができる方を希望します。詳細は事務局までお問い合わせください。



心が動いたら会員に

ペシャワール会入会案内

現地事業はあなたの会費で運営されます

本会は、会員の会費・寄付金を中心とした寄金によって運営されているNGOです。本会の活動をご理解いただければ、思想・宗教・国籍などを問わずどなたでも入会できます。

*会員の方には、現地の活動等の報告記事を載せた会報を年4回お送りしております。



年会費

学生会員	1,000円
一般会員	3,000円
維持会員	10,000円
団体会員	30,000円

(会計年度は4月1日～翌年3月31日)

*会費以外の寄付も随時受け付けております

会費・寄付などの納入方法

郵便払込口座番号 01790-7-6559

加入者名 ペシャワール会

本会または郵便局備え付けの払込取扱票に上記の口座番号ほか、必要事項をご記入の上、郵便局からお送り下さい。

※ご入会の際は通信欄に「入会」と明記して下さい。

会報の発送に年間700万円以上かかっております。
未使用切手・書き損じのハガキ等をお送りいただければ幸いです。

(使用済み切手は扱っておりません)